

(別添4)

【大阪狭山市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

小学校1年 端末の扱い方を学ぶ。

小学校2～3年 個別最適化ツールを使用して学習する。

小学校4年～中学校3年 AIドリルや調べ学習、協働学習ツールを使用して日常的に端末を活用する。

学年段階に応じて、端末の使用難易度をあげていき、学校や家庭だけでなく社会に出てからも臆することなく、ICT機器を活用することができる力を身につける。

2. GIGA第1期の総括

- ・令和2年度に市内児童生徒全員分の端末の整備を行った。また、Googleのアカウントやタブレットドリルをあわせて、整備することで家庭での学習環境の整備を行った。

【成果】

- ・学校内のネットワークが一斉通信に耐えられないことから、一時期活用が停止する時期もあったが、令和6年度にネットワーク環境の更新を行い、一斉通信にも耐えられるネットワーク環境が整備することができた。

【課題】

- ・令和7年度に更新予定のOSは既存の端末OSからの切り替えとなるため、操作感や活用方法を習得する上で、児童生徒や保護者、教職員の負担が予想される。基本的な操作から調査、研究していく必要があるため、重点的な支援策を講じていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

- ・ハード故障となっている端末を使って、リサイクルやリユースなどの環境教育に取り組む。

- ・協働学習ツールの活用方法について、他市町村や他府県、メーカーによる先進的な事例を共有する。

- ・Googleの関連会社によるGoogleアプリの活用方法やダッシュボード機能の構築による個別最適化、AIスクリーニングシステムとの連動をすすめる。

- ・ICT教育がテーマになっている小規模特認校制度のICT環境を充実させるとともに、活用事例などを研究部会などで共有することで、市内の情報活用能力の育成を図る。

教育DXに係る当面のKPIについて			
項目	KPI	取組内容	目標値
1人1台端末の積極的活用について	校内でICT研修を実施している学校の割合	・研究部会やICT支援員と協力して、校内ICT研修会を実施する。	100%
	教職員が授業で端末を週3回以上活用する学校の割合	・校長会、教頭会、首席連絡会や研究部会で意見集約を行い、校務用端末の機能改善を行う。	100%
	全国学力学習状況調査における「ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」の質問に対して肯定的回答が全国平均を上回った学校の割合	・AIドリルを活用して学習することの面白さを実感する。 ・デジタル教科書の活用による授業の面白さを実感する。	100%
個別最適・協働的な学びの充実について	ダッシュボード機能を構築することで、個別最適な学びを実現し、ダッシュボードを構築した児童生徒の割合	・クラウドサービスによる学習状況のデータの利活用によるダッシュボード機能の構築による学習状況の見える化を実施する。	50% (R7) 100% (R8)
	協働学習ツールを活用する授業を週3回以上実施する学校の割合	・協働学習ツールを活用することで、自分の意見や考えを学級や学年間で共有する。	100%
学びの保障	不登校児童生徒へ授業配信を実施している学校の割合	・オンライン授業の配信ができる環境を整える。	100%
	端末を活用した教育相談を実施している学校の割合	・フォーム機能による教育相談の窓口を設置する。 ・相談があった場合は、学校・SC・SSWなどによる教育相談を行う。	100%
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援にICT端末を活用している学校の割合	・予備端末や第1期端末の再利用において、翻訳機能を使用することで、コミュニケーションが取りづらい児童生徒の支援を行う。	100%